



SDGsが掲げる“誰一人
取り残さない”
世界の実現のため
に・・・

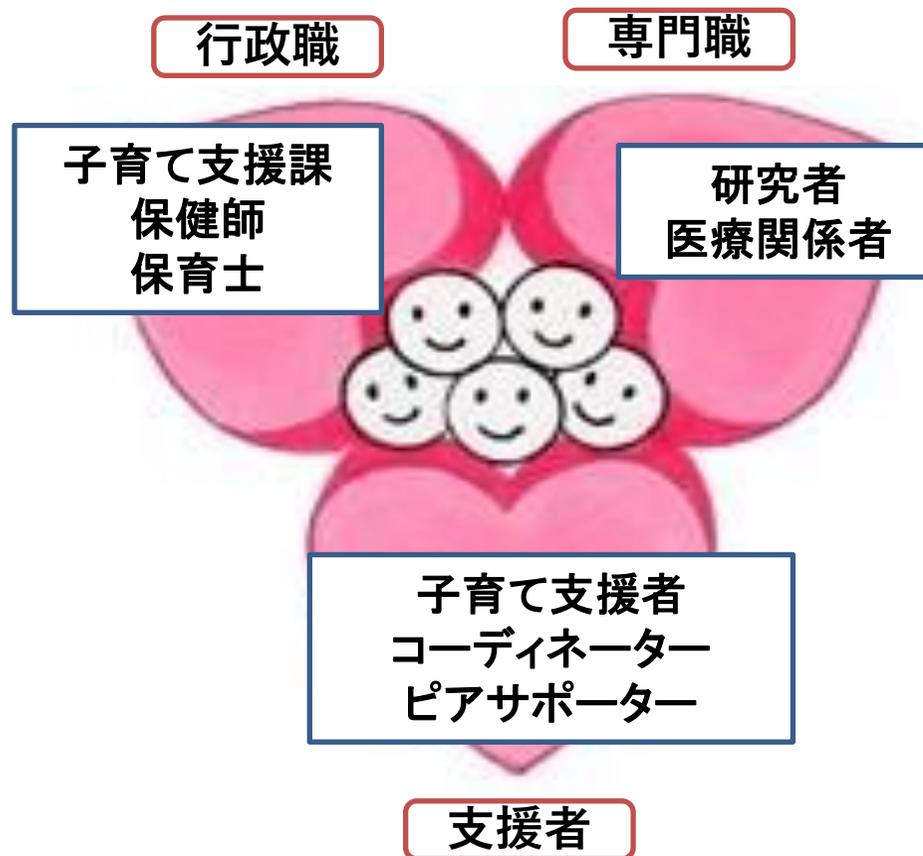
MCF助成事業2021
【岐阜県が多胎家庭のコロナ禍での困難さの実態と
求められている支援】
NPO法人ぎふ多胎ネット



ぎふ多胎ネット

行政職・専門職・支援者が
それぞれの立場と得意分野を
持ち寄って
多胎家庭の支援をするため
2006年に設立された団体。

ふたご・みつご等
多胎児を産み育てた当事者が
支援者となって
専門職・行政職と連携を取りながら
当事者性を活かした
支援メニューを提供し
多胎支援の必要性を
社会に発信している。



調査の背景

- 2020年4月に「コロナ禍の多胎家庭緊急アンケート」を実施。
- 《71家庭から回答》 ↓
- ふたごの年齢別にコロナ禍特有の共通の課題が見られた
- コロナ禍で妊娠期や出産、産褥期の状況が変化
- 《多胎家庭特有》 ↓
- 新たなたな課題が出てきた

長引くコロナ
=虐待リスク高

早急の実態調査をし、
課題を解決する支援策を
実施しなければ！

調査の目的、対象、方法、活用

- **【目的】** 岐阜県が多胎家庭のコロナ禍での実態や課題を多胎児の年齢別に明らかにし、必要な支援策や政策を提言する。
- **【対象】** 岐阜県内に住む0～3歳の多胎児を養育する家庭（主に母親）と多胎妊婦
- **【方法】** 当団体に登録している多胎家庭にアンケートをメールで送り回答を返信してもらおう。裏付け追加調査として赤ちゃん訪問、家庭訪問、健診サポート、育児教室などを利用した母親からヒヤリングし、補完する。調査項目は岐阜県立看護大学の服部・名和先生に助言指導を仰ぎ作成し、分析もお願いする。
- **【活用】** 調査結果は「コロナ禍の多胎支援提言書」としてまとめ、岐阜県内の自治体、全都道府県に配布する。

- 2020年度におこなった「コロナ禍の多胎家庭緊急アンケート」と訪問支援で当事者が訴えた事柄から、以下のように妊娠期から多胎児の年齢別に共通の課題があると思われる。これを明らかにし、課題解決のために必要な支援策を提言する。
- 【妊娠期】受診人数を制限しているため、他の妊婦と出会う機会がなく情報不足になっている。妊婦健診の付き添いが不可となり、家族で情報を共有する機会が失われている。また、切迫早産で明らかな治療が必要にならない限り管理入院することが少なくなり産後の予後が悪い人が多い。
- 【産褥期～0歳】体調不良やそれに伴う産後うつの人が多く、育児に向かう体力と気力が乏しい。その中で過酷で複雑な多胎育児に戸惑っている。また、NICUに赤ちゃんたちが入院した場合、コロナでほとんど面会ができず愛着形成が困難である。コロナで過酷な育児の手助けを肉親に頼みづらい状況の為、母親の負担が大きくなっている。

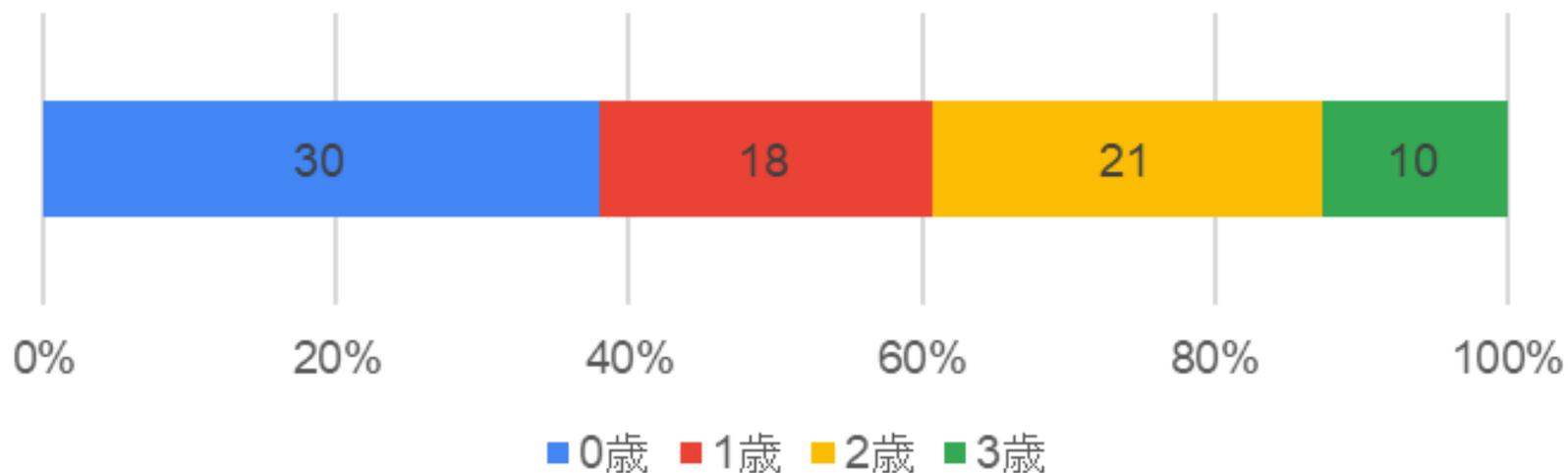
- 【1歳～2歳】安全に遊ばせられる室内の遊び場が閉鎖、または人数制限されていて利用しづらい。動くようになり、安全確保のためにファミリーサポートを利用したいが料金が倍になったりサポートしてくれる人が見つからなかったりするため利用しづらい。また公園など戸外の施設はもともと安全確保が困難な上、感染防止対策が母親だけでは難しいため利用しづらい。以下のことから外出困難になっており、母親も子どももストレスが高い。
- 【3歳】保育園の入園が困難な上、ハローワークなどに通いづらく就職活動が困難。一時預かりも2人のため利用困難となる。

予想される主な提言

- **ピアサポート活動の事業化** • **妊娠期サポート事業の積極的利用**
- **産後ケアの助成** • **ファミリーサポートやヘルパー派遣の無料化**
- **子育て広場や一時預かりの優先利用** • **多胎項目の入園点数化**

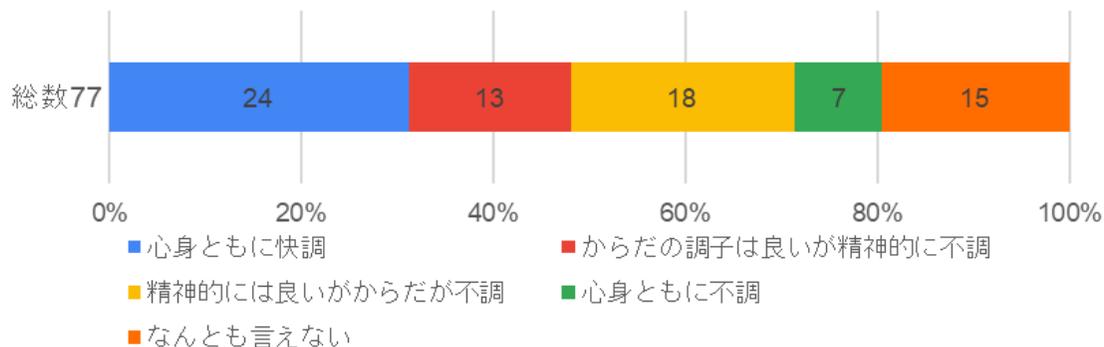
結果(回答者)

【図1】 多胎児の年齢

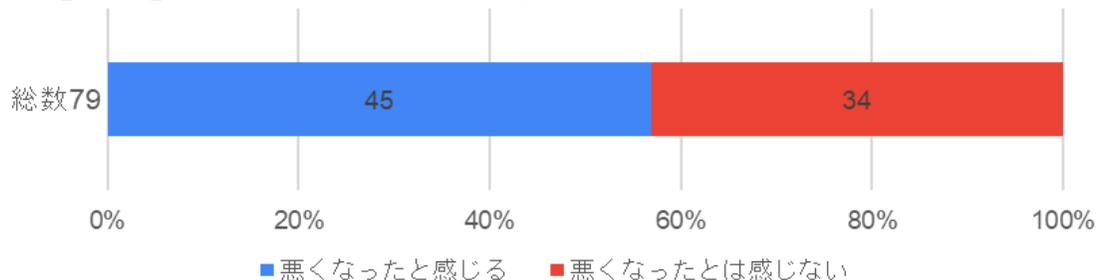


回答者数...79人
《内訳》 多胎児の年齢
0歳(30人) 1歳(18人)
2歳(21人) 3歳(10人)

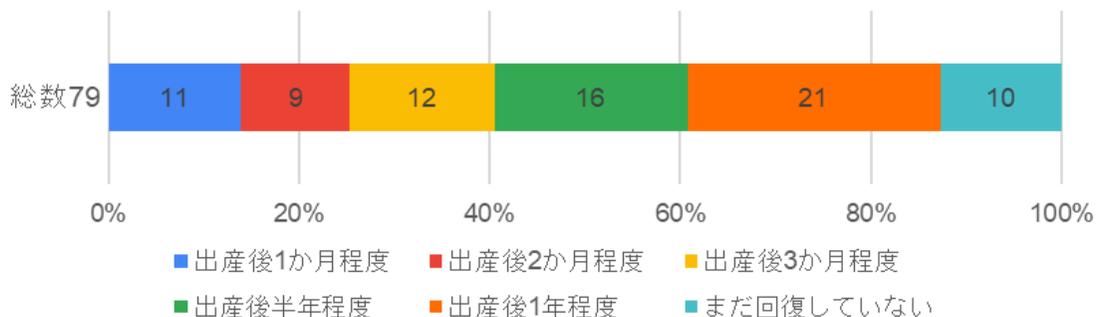
【図15】現在の体調について



【図16】多胎児の出産以降の体調について



【図17】出産後体調が回復したと思えた時期



母親の
体調不良

産後の心身の
体調が悪く
しかも
それが長く続く

体調不良

退院指導不足や
両親学級の
開催中止

NICUの面会制限
↓
愛着形成困難

育児
困難

母体を休ませ
健康回復

多胎育児の
練習、習得



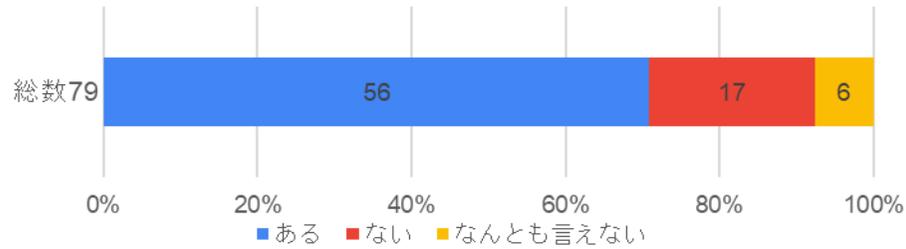
産後ケア

☆助成

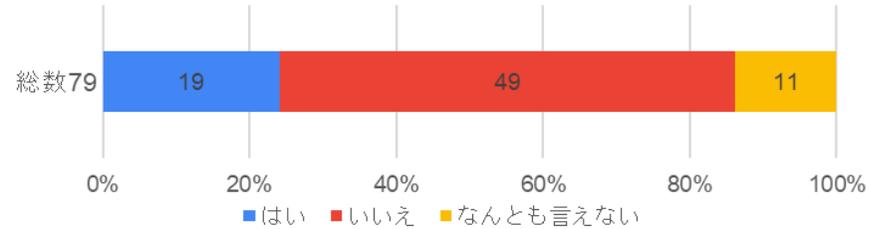
☆保健師による
アセスメント
=新生児訪問
を早期に！

調査結果から見た必要な支援 2

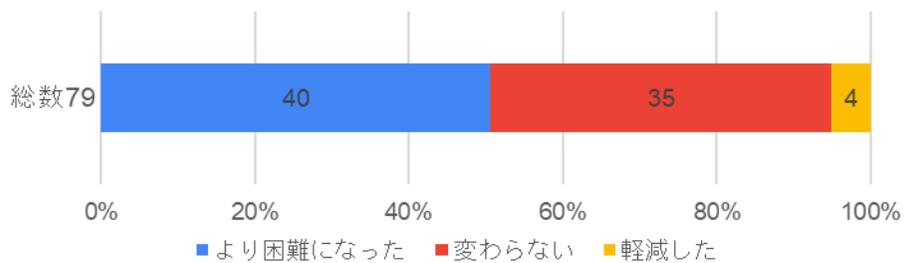
【図29】 多胎育児への困難感を感じることもあるか



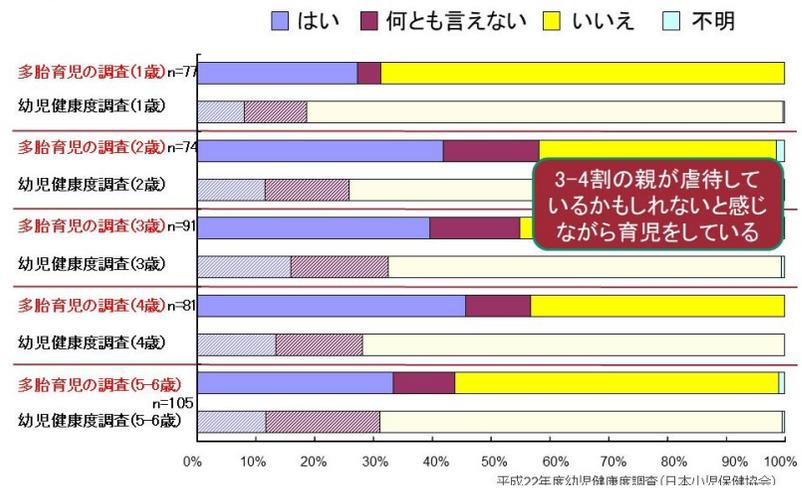
【図35】 子どもを虐待しているかもしれないと思うことがあるか



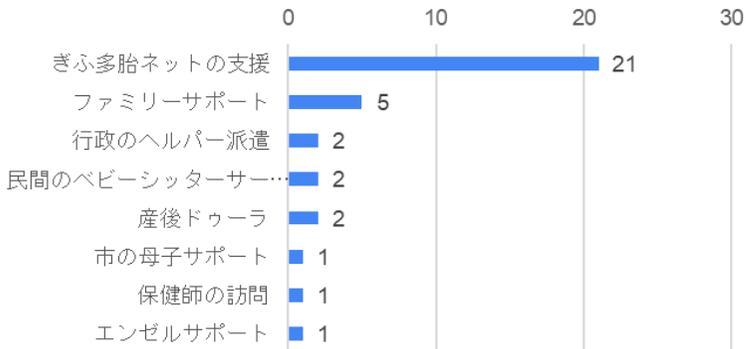
【図31】 コロナ禍での多胎育児の困難感の変化



Q 子どもを虐待しているのではないかと思うことがありますか？



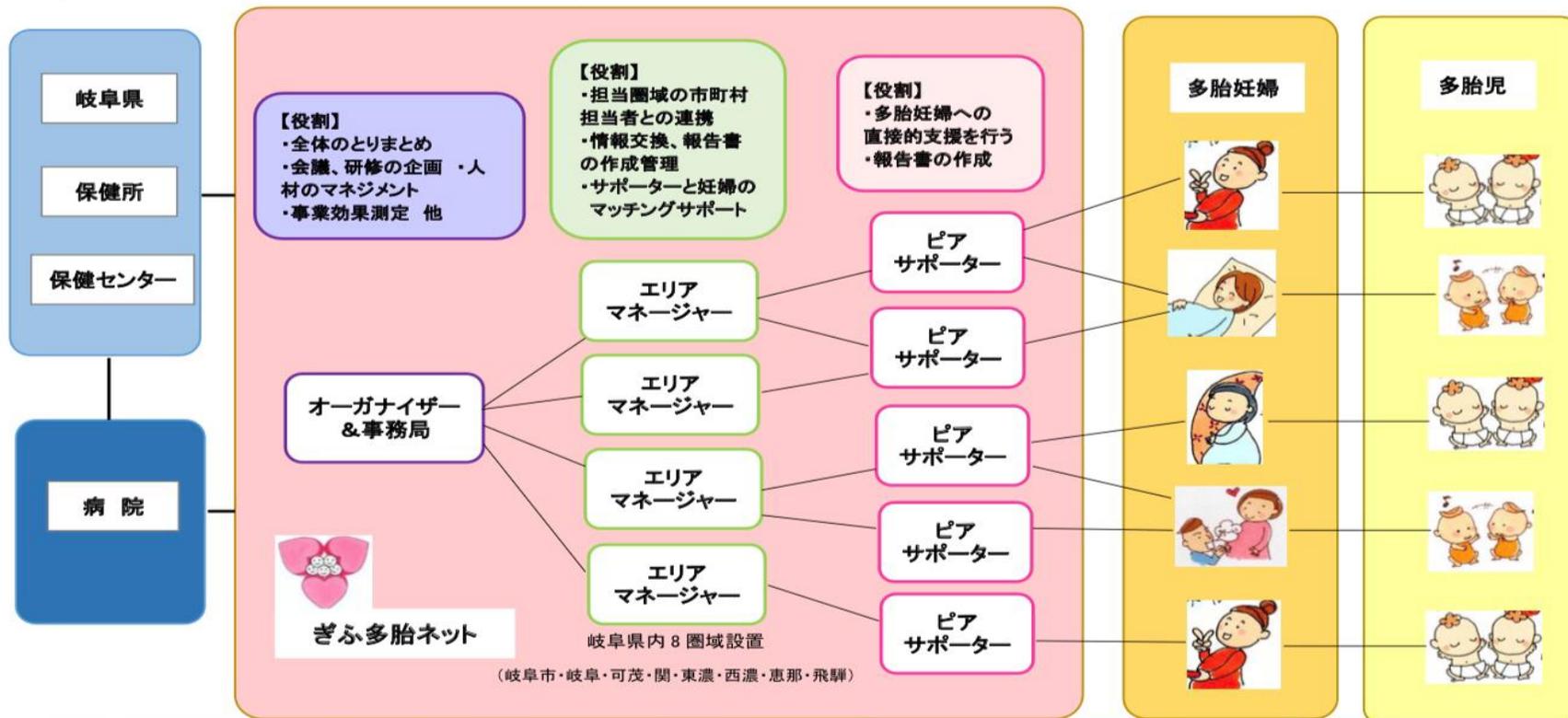
【図43】 利用したサービス 総数27 (複数回答可)



体調不良で育児困難な多胎育児
7割近くの人が多胎育児に困難感を覚え、
コロナ禍でさらに困難感は増大したと感じているが、
全国調査に比べると岐阜県の方は虐待感情が低い
=ピアサポートの効果

岐阜県の多胎支援【ぎふモデル】

岐阜ふたごトータルサポートシステムの全体像



誰一人取り残さず
妊娠期から切れ目なく

- 連絡会議等**
- * 連絡会議① エリアマネージャー×行政担当者×医療
 - * 連絡会議② ピアサポーター×地域の関係者×エリア M
 - * エリアマネージャー(8 圏域)会議 1 回/月)
- 研修**
- * 専門職研修
 - * エリアマネージャー研修 1 回/年
 - * ピアサポーター研修 3 回×3 か所/年
 - * ピアサポーター養成講座 3 回/年

- 直接支援(訪問等)**
- 妊娠期サポート
- * 状況把握(電話・メール等 1 回/月)
 - * プレバパママ教室
 - * 妊婦家庭訪問
 - * 妊婦病院訪問

- 産後サポート
- * 赤ちゃん訪問同行
 - * 家庭訪問
 - * 家事・育児・外出サポート
 - * 健診サポート(4 カ月、10 カ月、1 歳半等)
 - * 多胎育児教室
 - * WEB おしゃべり会

